

平成 27 年度 但馬定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議録（要旨）

日 時 平成 27 年 8 月 31 日（月）
但馬分科会 10:00～11:00
豊岡市分科会 11:10～12:00

場 所 豊岡市役所 3 階 庁議室

出席者 但馬分科会 9 名中 7 名
豊岡市分科会 欠席者なし

欠席者 但馬分科会（豊岡病院組合理事、兵庫県猟友会養父支部長）

事務局 豊岡市（政策調整部参事、政策調整課長、政策調整課長補佐、政策調整係主任）

関係市町 養父市（企画政策課長）
朝来市（総合政策課副課長）
香美町（企画課副課長）
新温泉町（企画課長）

1. 但馬分科会

分科会長 年 1 回の会合ですが、この但馬定住自立圏共生ビジョンの策定や変更する場合はこの懇談会の幅広い構成メンバーの皆さんのご意見で協議をしていただくことでこの懇談会の意義でございます。これから変更の説明がありますが、それから皆様方からの忌憚のないご意見を頂戴したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。それでは変更について説明をお願いします。

事務局 <事務局説明>

分科会長 事務局の説明が終わりましたので、ご意見、ご質問があればいただきたいと思えます。

委員 先ほどのごあいさつにもありましたけど、やはり人口減少の歯止めを考えるときに但馬の 3 市 2 町がそれぞれ自治体ごとに考えるのではなく、但馬の課題としてやるべきことだと思います。

事務局 人口減少対策は個々の自治体でやるべきことと一緒にあって取り組んだほうが効果が上がるものがあると思います。その区分けや整理が必要だと思っています。この地方創生に関する法律ができていまして、それぞれの市や町において今年度中にそれぞれの取組みをまとめた総合戦略を作りなさいということになっていて、その中にはそれぞれ取組みが入ってくることとなりますが、その他に手を取りあうことができることは何があるのかと考えた時に現時点では具体案がないといったところです。

委員 私は商工会に携わっておりまして、但馬には 5 つの商工会があり、道路アクセスも良くなる中で就職ということを考えると新温泉町から豊岡市が十分に通勤圏内になっています。商工会としてもリンクをしっかりとしていけないと思っています。商工会としてこのような連携を提案していますが、行政の中では縦割りのなかで難しいといった実態があるようですのでこれからも積極的に行政がぜひ、支援していただきたい。

分科会長	<p>出会いの機会の提供といったことでも同じことが言えると思う。各市町ごとに実施してもなかなか成果が上がらないし、この辺も但馬全体の連携が必要だと思います。</p>
委員	<p>出会いの機会の提供に関して、新温泉町の担当の方にお伺いしたいんですけど、新温泉町は27年度予算が減額されているように思われますが、これは何か別のことを考えておられてのことでしょうか。</p>
新温泉町	<p>27年度の数字は26年度の実績から計上している数字であり、意図して減額しているものではありません。商工会青年部に委託して実施しています。この事業費の中には婚活の委員会の委員の報償費等も入っています。そのメンバーも交代していますので、その精査によるものです。27年度の予算はこれぐらいあるといったことで、28年度はそのままの数字を継続しているので事業を減らしたというものではありません。</p>
委員	<p>むしろ、もっと前向きに予算をつけて、取り組んでもらいたいと思います。他の市町は予算をつけて頑張っていこうという姿勢が見えますので、新温泉町ももっと頑張ってくださいたいです。商工会青年部も一生懸命婚活をやっているので応援をお願いしたいと思います。</p>
副分科会長	<p>定住促進のために各市町が工夫して、人口を増やし、定住を促進することに取り組んでいこうとしておられますが、但馬全体で取り組んでいくにはなかなか難しいところもあります。安全で安心してた生活を担保することが大切になってくる。働く場所がないというのが一番の問題であって、都会に出て戻ってこようにも働く場所がないのが問題である。創意工夫をしていくことが大事だと思うけどなかなか難しいと思う。国勢調査の委員をしていますけど、空き家が大変多くなったと感じます。次の世代がいなくて、親が高齢で住んでいるので都会に引き取って過疎が進んでいくだけとなっている。現実的に考えていけないと思う。</p>
分科会長	<p>地域コミュニティの核になってもらうのが自治会長であって、小さな集落単位の最小単位のところをしっかりと支えてもらっています。人口減少や介護の問題も出てきていますが、そういった意味では自治会の役目というのが大変だと思います。地区の区長さんは現状を一番良く知っている方でもありますし、一番苦労されている方でもあるので、区長さん方にも頑張ってくださいたい機会が今後、さらに増えてくるのかなと思います。</p>
委員	<p>冒頭に事務局がおっしゃられた件で地域創生の法案が整備されてきています。県の地域創生条例もこの4月に施行されたと思いますけど、この定住自立圏の懇談会ではまだおっしゃっていましたが、今後どのように関係していけるかが大切であると思います。その辺りのところで方向性をどのように結びつけるものなのか、もしくは、別で考えるものなのかということが確認したいです。交通網の但馬の定住自立という難しい言葉ですけど、交通網の利便性というのが非常に大きくなると思いますし、皆さんご存知のとおり北近畿豊岡自動車道が最終豊岡までということで延伸されてきています。神戸、大阪、都心部とも豊岡から2時間半、3時間を切る、湯村温泉にしても3時間くらいで結ぶような現状になってきて非常に都心部が近くなってきています。交通体系、足というのが但馬と都心部を結</p>

ぶ非常に大切な要素だと思います。また、人の交流についても結びつきができてくるかなと思います。今後についても、山陰自動車道ですとか色々と話が出ていますが、このようなインフラのネットワークというのは非常に大きな要素になると思いますので、どう結びつけていくかというのはその辺も含めて考えていければと思います。大きな話であるので、個人の意見ですが、弊社としても姫路の高速バスをこの5月から新しく運行しておりますし、姫路・播州、神戸、大阪と但馬を結ぶようにしておりますし、JRとも色々競合する部分もあるんですけど、この高速バスのネットワークを利便性を高めていくというのは非常に大きなことであると思っています。この3都市だけでなく、色々な面で進めていきたいと思って検討しているところです。

委員

私も人口減少に関することが非常に大きな問題だと思います。但馬の人口は昭和35年、1960年にピークを迎え26万人でした。今は18万人を割って、もうすぐ17万人を切りそうな数字で推移していますが、人口が半世紀の間で1/3減ってしまいました。今後もっとスピードが増していくことが予測が出ていて本当かなと疑うような数字であり、そうなればどんな地域社会になっているのか想像したら寂しくなってきました。それを防ぐにはこのビジョンに書いていることを本当にやっていかないといけないと思います。それぞれが関連していると思います。先ほどの出会いの場を提供するというのは、今、但馬にいて結婚できない人への対策であると思いますし、そのことだけではダメなので今いる人が子どもをもう少し産んでもらうために子育ての環境や医療の環境の整備とかも必要ですし、新しく外から人に入ってきてもらうことも大切だと思います。これらのことを自治体がバラバラで実施するのではなく、みんな関連しているという意識で実施していくことが大切だと思います。

委員

医療のことでしたら、但馬全体で考えることがだんだんと多くなってくのではないかと思います。そういう意味では定住自立圏の枠組みで周産期医療センターを整備したことは非常にうまい具合にこのシステムの中に入ってきたと思いますので、そういう意識を持ちながら今後、医療、介護についてもこの枠組みで何かできることがあれば実施していただけたらありがたいと思います。

委員

交通のネットワークの関係ですけど、(委員)から意見もあったJRの関係について城崎までは電化されて、京都、大阪からの利便性が向上します。実は鳥取、因幡、但馬、丹後関係で色々なネットワークがあり、交通ネットワークの話も出ますが残念ながら、城崎まで電化されていますので城崎から東の自治体の熱が西部の2町と比較して大分温度差があるような気がします。但馬は一つということを考えて城崎以西をどのようにネットワーク化、高速化していくことについても一つになって検討する場が必要であると思います。何回か会議へ出席するなかで感じるのですが、東の市の欠席が多いので、一緒になって考えていただけたらと思います。

委員

新温泉町は増田レポートで兵庫県でナンバーワンの消滅可能性都市であり、まさに人口減を目の当たりにしているところです。どうすれば行政も民間も人を増やすかということにこれから専念していかないといけないと思います。そのなか

でインフラ整備などがきちんに行われないと外から人に来ていただいたり、住んでいただくことが難しいかと思えます。我々、民間でできる限界というのはありますので、行政がその辺を見据えた中で、但馬の中でも新温泉、香美町というのはちょっとまた条件が厳しい部分があり、但馬として一緒に力を合わせて我々、香美町、新温泉町もエリアの中で生きていく方法を見出していきたいと思えます。

委員

道路網というのは非常に大きく流れが変わると思えます。今度、浜坂道路が開通して、豊岡から浜坂までが香住道路餘部道路浜坂道路を使えば非常に近くなって豊岡市と近くなると思えます。鳥取も進んできていますけど、但馬を周遊できるようなネットワークが完成してしていくんだらうと思えます。どういう計画ができるか分からないですが。今度、国道が9号線と482号の整備も合わせてすれば、道路網のネットワークが完結して人の動きの幅が広がってくるのだらうと思えますので、非常に大事カナと思えます。北近畿道が完成間近であり、今後を見ていく非常に大事な部分だとも思えます。

委員

昨年、夢但馬2014の関係で但馬各地で300近いイベントが開催されましたが、入込数を見たときに前年を割っています。香美町だけかなと思いつながら但馬全体を聞いてみると但馬全体でも減っている現実がある。この定住自立圏、地方創生を考える上で、自分の生まれ育ったまちに誇りを持つことが大事だと言われるんですが、何か人の交流が昨年一年間を見た限りでは平成6年のうねりを考えるとあまり人の動きがなかったのではないかと思えます。もう一度、自分の但馬を考えるいい機会だと思えますが、やはり、地域に住む人たちが誇りを持つと思えば自分自身がまちを好きにならなければなかなか難しいと思えますので、但馬の人も3市2町ということではなく、但馬全体を回流するような機会を考えていく中で誇りを持つような仕組み作りがあればいいかなと思えます。

委員

私も同じことを感じていて、ビジョンを見ていて教育が大事だと思えます。地域がすばらしい、食べ物おいしい、30分圏内でスキー場もあるし、海水浴もでき、温泉もいっぱいあります。子どもたちが本当にどう思っているかということで、暑いし、寒いし、産業がないということで、否定的なことを思う人が多いと思えます。大学を出て但馬に帰ってくる人は何割かしかないということでその分人口が減ってしまいます。その原因は産業がないということがありますが、それよりも但馬の良いところを知ってもらうことが大切だと思えます。交流人口ということで但馬外から来られた方へのおもてなしにもつながると思えます。自分たちが誇りに思う地域は他人にとっても自信を持って売り込むことができますし、説明もできて、さらに関心深めてもらうことができます。ささやかな取組みですが、私たちの事務所では「ふるさとづくり協会」で但馬検定を実施しており、今年で10回目を迎えます。但馬を知って、好きになって、情報発信をしていくということを目的に続けています。遠方からも受験してもらっており、企業や観光協会、市役所などの仕事に携わっている人は特に受験してくださいと言っています。但馬を知るといふ広がりを感じられないので教育ということからまずやっていかないといいなと思えます。

分科会長	合併していない1市18町の時代のほうが意見が出て、議論ができていたような気がします。協議をする機会が少なくなったと思います。
副分科会長	国に頼る訳ではないけど、地方が住みやすく国が地方に人を流すためには優遇税制や地方なりの住みやすい環境を作りやすい施策を実施していただかないといけないと思います。自然に人が流れこみやすい状況を作ってもらうことも大切だと思います。安心して安全なまちであって、病院や大学があって、周産期の医療もあってという状況も大切だと思いますが。
分科会長	農林水産業の振興も大切だと思います。特に、林業については山が良くなならないと海も農地もよくなならないと思います。過疎地はそういうところばかりなので、国土作りにもなるし、職場作りにもなるはずですし、シカなどの獣害も防げると思います。
委員	但馬の場合、一次産業が元気にならないと地域の発展が難しい感じがする。
委員	コウノトリ米もミラノに持って行って使われているそうで、そういった積極的な動きをしていかないといけないと思います。村岡米も世界一おいしい米だと思いますが、しっかりと付加価値をつけていかないといけないと思います。
事務局	人口減少対策の意見がたくさんいただきました。非常に難しい問題であり、昔から人口の問題があって成功した自治体がほとんどありません。例えば、大都市の通勤圏内でたまたま増えたとか、離島とかで10年前から死活問題となっていて全島民が本気で取り組んでいたようなところ以外はほとんどありません。このまま放っておいたら大変なことになるということになり、先ほど増田レポートという話があったんですけど人口の推測というのは経済の推測と違って変動要因がないので、まず、外れることはありません。今、出ている人口予測はほぼ間違いなくそうなるであろうという判断で取り組んでいかないといけません。豊岡であれば、今から25年後に24,000人減ると予測されていて、24,000人とは豊岡エリアと日高エリアを残して全て消えてしまうというくらいに匹敵します。そうなってしまえば、町の元気も当然ありませんし、だからどうやったら人が増えるということで毎日悩んでいます。但馬の各市町もどうやったら良いまちになるんだろうということでは総合計画とかを作って取り組んできたんですが、それでも人が減っている現状であります。では、どうやったら人が増えるんだろうということで、色々なことを組み合わせないといけません。豊岡に帰ってこない人に聞くと調べる気にもならないことを変えていかないといけないと思っています。幼い頃からのふるさと教育とかすでに出て行った人達への働きかけとか色々な子ども達のステージで働きかけが可能ではないのかと思っています。まさに、今、全国の自治体が例外なくやっています。移住の関係であれば全国、都市部からいかに移住してもらうかということといかに結婚して子どもを増やすかということの2通りしかありません。そこに至る道筋は無数にあって、それをどうするかを悩んでいるところです。
委員	大学の近いところで求人すると何百人も応募があると聞きます。現在では、毎年何名かずつ増やしている企業もありますが、但馬の中での求人も住んでいる人や高校生にとって大切ですけど、但馬の企業が外に出向いて求人していることはやっているんでしょうか？

事務局	5年位前から始めています。最初は、企業も始めての取り組みということでなかなか呼びかけに対して答えが少なく、京都府の北部も含めて声をかけて一緒に始めました。最初でも200人以上の学生が参加してくれました。出向いて行くことで豊岡市出身者だけでなく、他の市町の出身者にも豊岡という名前をPRできたので、Uターンだけでなく、Iターンの人も呼び込もうということで効果があったと思いますし、企業も効果については手ごたえを感じて、毎年やりたいということでそれからずっと続いています。企業も増えているので、今後もさらに改善していきながら実施していくことが大切であると思います。
委員	但馬が一つになって各市町で集まってやったら、より効果的で但馬出身者だけでなく、但馬外からも呼び込んで人口増につながると思います。
分科会長	将来的に80歳以上が35%を超えるときがやってきます。85歳以上の人でも但馬に住んでいたら安心して暮らせることもまちづくりの有り様かなと思います。経済的に恵まれなくても人のつながりが良いといった安心して暮らせることをPRしていくこと但馬のまちづくりだと思います。みんなで話し合う機会を作ることが大切であると思います。
委員	地方創生の国・県・市の連携の情報は何かありますかでしょうか？
事務局	現在、具体的な話はしていませんが、これから指示が出てくると思います。国は国、県は県、市は市としてできることには枠組みがあると思います。やっていることが噛み合ってくればよいのではと思います。そういった戦略については、国は作成済みで県、市は現在作成中となっています。
分科会長	特にご意見がなければ、これで協議・意見交換とさせていただきます。

2. 豊岡市分科会

分科会長	協議事項について私の方で進めさせていただきます。 まず、「但馬定住自立圏共生ビジョンの変更について」ですが、ビジョンの変更にあたり、懇談会の協議を経る必要があるため、忌憚のないご意見をいただきながら進めていきたいと思っています。特に、豊岡市区域部分について事務局から説明をお願いします。
事務局	<事務局説明>
分科会長	今の説明を受けまして、質問等がありましたらお出しいただきたい。 <ビジョンの内容変更について施設名等の修正指摘> ・伊藤清永記念館（新旧対照表変更前）、出土文化財管理センター（廃止） <ビジョンの内容変更について補助率の確認指摘> ・鳥獣被害防止総合対策事業 ハード85%
分科会長	意見交換とさせていただきますと思いますが何かありますかでしょうか。 先ほど、控室で話していたことですが、女性の力が分散されてしまっている気がします。昔は、婦人会があり、婦人会があったからこそ、若い女性も婦人会に入会してもらって、うまい具合に機能していた時代があったんですが、今は婦人会組織がなくなってしまい、好きな人達でグループを作ってやろうと思っても、若い人達が入ってきてくれなません。どんどん高齢化してきて、そのことが大変危惧され

委員

るという話を伺いました。今後、そのような問題を施策としてどうしていくかということですが、コミュニティの問題として検討を進めていくと思うんですが。

新しいコミュニティに対して期待しているんですけど、今おっしゃっていたように婦人会組織が壊滅しています。私は民生委員の立場から出ているんですが、ボランティアの給食サービスをしていて配送の関係は組織がきちんとできているんですが、作る方がどの団体も消えてゼロになってしまいました。なぜ、そのようになってきたかということ、昔は先輩から言い継ぎで言われたら何の抵抗もなしにボランティアに入っていて、今ではボランティアの方々が70代くらいになっていて次の若い奥さんやお嫁さんでボランティア精神がある人に代を渡そうかと思うんですけど、機会とかチャンスが一切ありません。それよりも、「働かないといけない」ということで「そこら辺は優遇しますよ」ということで「そこら辺はよろしいです」と強制してこなかったことがあります。もし、どの団体も消滅してしまえば、高齢者夫婦だけの世帯が増えてきて大勢の目があるようになってきました。ボランティアとして見てもらうことができると思うんですけど、担ってもらえる人材がいなくて、勧誘する機会がないので大変困っています。

副分科会長

うちの区は婦人会がだいぶ前になくなってしまいました。農協の下請けみたいなところがありました。連合婦人会が一番大変で動員ばかりがあって、役員のなり手がなくなったことが原因だったんです。でも、組織がないといけないということで「婦人の集い」という誰でも各世帯から一人女性が出るということにしてやりましたがほとんど活動がありません。だけど、そのなかで唯一、活動らしいものは「健康をすすめる会」があって、それはやっていたんですが、2年前からなくなってしまいました。それが大変残念だったし、一方で歩いて暮らすまちづくりがあるので、せっかくあったのに皮肉的だなと思います。婦人会と同じで組織が成り立たないというのでやめたというのが理由ですが、あまりにもバツサリとなくなったのがもったいないと思います。

分科会長

うちの村は婦人会がなくなった代わりに女性委員を各隣保に一人ずつ選出するというようにしています。村の行事で女性に手助けをお願いしないといけない敬老会といった事業には女性も関わってもらうような仕組みに変えてきています。婦人会をやめるので女性委員を出すことを検討してもらった結果で変わりました。移行期間で何年か婦人会が残っていましたが、これから高齢化や少子化に向かう中で非常に課題になることでもあると思います。女性の役割がもっと出てくると思います。

副分科会長

出土文化財センターを中心として「勾玉ゾーン構想」というのがあって2万年からの通史がそこで分かるようなことをしていくというものがありました。神美らしい地域づくりをワンセットとして体験として勾玉作りをしたりして、それはそれで定住策としての地域のアイデンティティを作り上げる地道な取り組みであったのに残念です。

別件で、要望ですが、シカがものすごいです。うちの村はまだ自分たちで防護の方法をやっておられますが、そのためにだんだんと汚くなっています。田んぼを変な網や金網で囲ったりして、美しい農村景観がどうしようもなくなってしまいま

した。もっと過疎が進んだ限界集落のようなところでは人間がシカに追い出されようとしています。畑もおばあさん一人だったら作れません。せっかく作っても一晩でやられてしまうので、この定住自立ということを今や獣の圧力でやられているのが実態だと思います。これは、シカもサルもですがイノシシにも限定でよいので、鳥獣保護や狩猟法でも期間を定めています、時限立法でもよいので期間をなくして年中捕獲ができるようにしないといけないと思います。せっかく、駆除班も2班作って頑張って捕獲してもらっているのに毎年6,500頭どんどんと増えているので、今の期間でも捕獲できるように発想を変えてこないと本当に獣に追い出されてしまいます。畑を耕す意欲がなくなってしまう、経済のためでなく自分の食べる分であったり、娘たちに分けたりすることで良い雰囲気を作れていたのに思い切った対策をしないと但馬は潰されてしまいそうで危惧しています。蝶が蜜が吸えないといったことが新聞にも掲載されていましたが、それを通り越して土砂災害の危険があると思います。山肌が岩が露出して土砂災害の被害の上に定住意欲がなくなりつつあるので、この問題は最優先に対策を講じなければいけないと思います。柵をすれば人間は助かるんですけど山は下層植物はほとんど全滅していますので、どんどんと土砂が流出してしまっています。益々、山に入らないようになっていますし、抜本的な対策をしていかないといけないと思います。大分法律も変わってきましたけど間に合っていないのが現実です。

分科会長

シカもすごい能力があって、のり網を噛んで破って進入してきます。鉄が入っている高価なものであれば大丈夫ですが、普通のやつは噛んで入ってきます。学習して噛んで入ってきています。鹿が出入りする所だけが破れていてシカから農地を守る事が非常に難しい時代になってきています。

副分科会長

電気柵も電流が弱かったら、イノシシ1頭が突っ込んで大丈夫だったら、続けて何頭も入ってしまうし、それを防ぐために電流を強くすればこの間の死亡事故みたいになってしまいます。もっと、強固にしようとして網を垂らすとそれにコウノトリが引っかかって死んでしまったりするので困っています。きちんとした金網にしてもらわないといけないが、すごく費用が高くなってしまっているので困ってます。

分科会長

出石はそばを地元で作って、それを町内のそば屋さんで使ってもらおうという取り組みをしていますが、明日収穫する予定だったのに一晩で全部食べられてしまったことがありました。そば、大豆はシカの大好物であり、なかなか対策が難しい困った問題だと思います。

他にご意見がなければ、これで協議・意見交換とさせていただきたい。